

第3回 クレジットカード分野に係る API 連携の推進に関する検討会 議事要旨

日時：令和8年3月3日（火）16時30分～17時30分

場所：経済産業省別館11階1107会議室

出席者：

中川座長、越塚委員（オンライン）、二村委員、保木口委員、山上委員

議題：

1. 開会
2. 事務局資料説明
4. 意見交換
5. 閉会

議事要旨：

事務局説明後、意見交換を実施。

委員からの主なコメントは、下記のとおり。

API 推進の意義

- 方針や運用の検討においては、提供する事業者側の目線ではなく、国民目線で行うことが重要と考える。
- 現在または今後の将来では、多くの経済行為がデジタルプラットフォーム上でますます行われるようになる。それに合う形で、国民や中小零細企業を含む法人が、自身の資産管理や出納の管理が容易かつ小さな手間で行えることが重要なのだと思う。クレジットカードというものが将来においても重要な決済手段だと推定されるので、国民がその利用状況の管理を容易に行えることは現在、将来ともに重要。

API 推進の政府目標

- API はどこと接続するかで内部 API か外部 API かに分かれる。政府目標について、外部との接続を明確に打ち出しては如何か。
- API を外部接続する資格要件などをあらかじめ決めて、要件を満たした先からのアクセスを可能にするなど、明確にしていただけないかと思う。

API 連携の推進に向けた協議会

- デジタルの進展というのは加速度的に変わっている状況。API 連携の推進に向けた協議会では、過去を見るのではなくフォワードルッキングで、グランドデザインのようなものも含みながら検討していく必要があるため、経産省にも参加いただき、将来的なスコープでの検討を実施いただきたいと思う。
- 協議会へ参加するメンバーの属性を考えた際に、将来に向かってのロードマップを作るような議論まで出来るかどうかは未知数。議論の対象を広げすぎても逆に進まないという懸念もあるのではないかと。まずはとりまとめ案の形で立ち上げるのが大切だと思う。

消費者向けの対応

- 消費者への啓発に当たって、自身の情報が API 連携されているかの確認は、消費者が実際にその情報にアクセスして確認する場合と、カード会社の WEB サイト等に情報連携を行っている一覧が掲載されており、そこで確認出来るという 2 つの方法がある。これらを両方行うことが重要なのではないか。
- 消費者目線で、セキュリティの面や、現在の消費者の利便性が損なわれることがないようにという記載が随所にある。協議会の議題にも記載があるので、業界の対応に期待する。

API 推進の今後

- 現在はデジタル経済に移行する過渡的な状況。技術的にも利活用的にも過渡的な時点であり、これからますますデジタル時代へ移っていき、加速度的に変化が起これることも考えられる。今回のとりまとめを適正に実施することも重要だが、デジタル経済の変化の状況に合わせ、必要に応じて見直すことも重要。
- AI エージェントの発展を鑑みるに、将来的にそうした AI へ消費者が自身のデータを取り込ませるといった動きが出てくると思われる。そうした際には API でのデータ連携が前提となるのではないか。
- AI エージェントの発展が急速に進むと、今ある家計簿アプリとの連携にとどまらない利用方法が出てくるのではないか。その中で、API という環境を整備することが役立つという動きが加速し、社会に向けても重要なステップになるのではないか。

座長より、本日の議論を踏まえ以下の発言があった。

- 有意義な御意見をいただいた。とりまとめ案の修文はなしという結果であったので、細かな見直しを行い、最終のとりまとめを行う。
- デジタル社会の進展に関する御意見をいただいたが、AI エージェントの例が挙げたように、API を利用する観点からは 3 年後には全く違うものになるのかもしれない。その意味で、今あまり細かく書かない方がよいというのも適切な判断と思う。API 接続が当たり前になる時代が到来するのは、大手クレジットカード会社を中心に認識されており、結果は十分に出るのではないかと思う。
- 協議会が進んでいく中で、必要に応じ、今後柔軟な対応がなされていくことに期待する。

お問い合わせ先：

経済産業省 商務・サービスグループ 商取引・消費経済政策課

電話：03—3501—1511（内線4120）